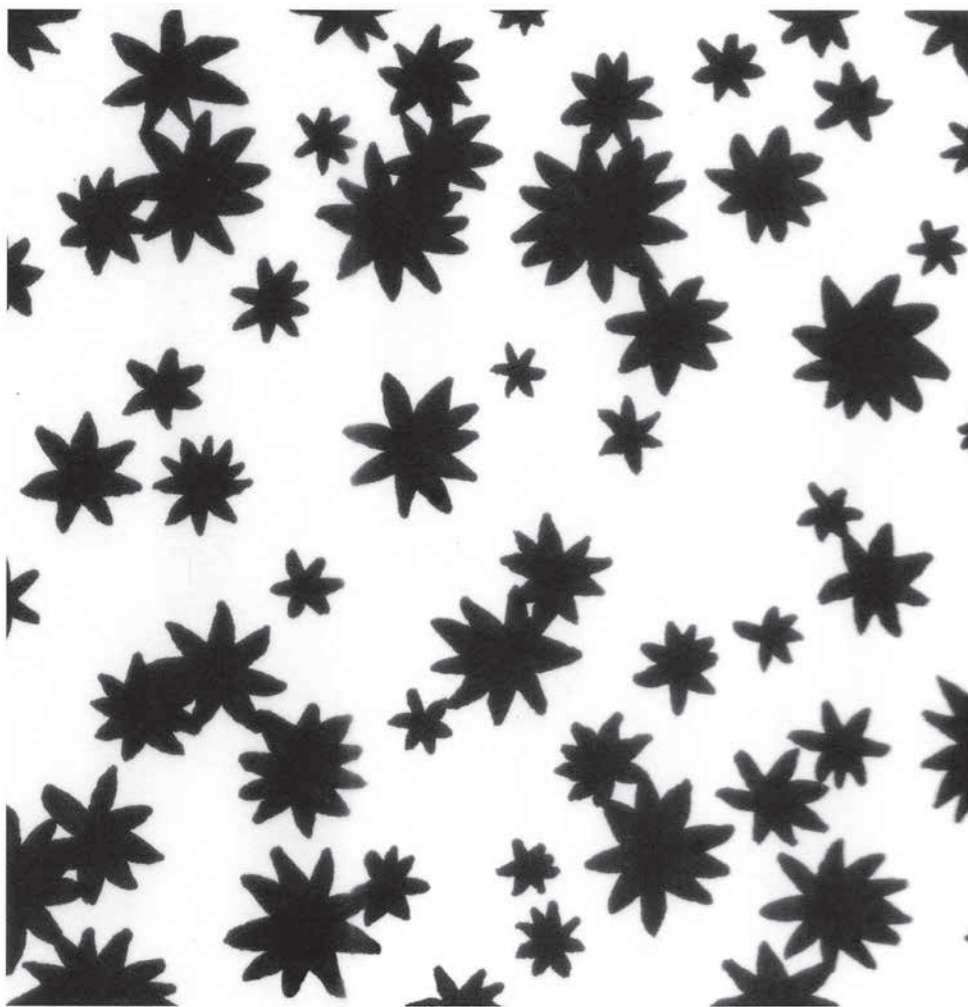


日本大学芸術学部



校友会報

平成27年10月発行
2015年秋季号

95

C O N T E N T S

学部長インタビュー

学部長・名誉会長 野田 慶人3

第9回日藝賞記念講演

荒井良二氏5

中園ミホ氏6

平成27年度校友会総会7

皆さん今日は!8

永い間ありがとうございました10

石川江古田会設立総会／第7回ふくしま江古田会総会11

福岡江古田会総会／第15回福岡江古田会アート展12

宮城江古田会総会／宮崎江古田会総会／山形江古田会総会13

熊本江古田会総会14

佐賀江古田会総会／鹿児島江古田会総会15

青森江古田会総会16

新潟江古田会総会／北海道江古田会総会／愛知江古田会17

学科ニュース18

江古田会各支部連絡表23

編集後記23



学部長インタビュー

綾部 北海道の総会から帰られたばかりの所にお時間をいただきありがとうございます。

野田 前半の八ヶ所が終わり秋からは長野、秋田、岩手の支部総会ですよ。

綾部 去年は岡山が、そして四月には石川県支部の創立でお忙しい中をご出席いただきありがとうございます。それに、鹿児島の十年振りの再開にご尽力をいただきまして。

野田 鹿児島は私の出身地ですから、中野支部長は中学・高校の先輩で、芸術学部では映画学科で宮沢先生の同輩でもあります。幹事長になった堀之内君は放送学科の同期です。

綾部 鹿児島支部は平成5年にスタートしましたが、15年頃にはもう活動停止状態でした。ちょうどその頃に全国に送った支部の旗も紛失したようです。支部長・幹事長は、野田学部長の在任中に何とか再開したいと、去年から福岡支部総会へも熱心にお二人で参加して下さっていました。

野田 支部も多くなりましたね。台湾、中国、韓国を加えると、今19支部ですか？

綾部 ええ、20番目も既に準備中でして、来年愛知支部が誕生します。

所で学部長、前回うかがっていました1年生から4年生まで四年間の学生生活を江古田校舎で学ぶ、通年化というのはその後進んでいるのでしょうか。

野田 僕の四期目もあと残すところ二年となりました。この二年間で二つやり遂げなくてはならないことがありまして、一つはこの通年化計画を具現化して、円満に百周年を迎えられるようにすることと、もう一つは、次世代にうまく受け渡していかなくてはということです。僕の世代に集中している教員が一挙に来年停年を迎えますので、次世代が急になくなるのです。

綾部 計画は予定通りに進んでいるのでしょうか？

野田 先輩後輩みんなで学ぶという江古田の日芸に戻したい。そういう中でコミュニケー

ション能力を養ってもらいたいといったことから通年化が決定しました。去年から具体的に模索を始めまして、計画段階では建物を二つ、一つは学生の憩いの場とか食堂とかになるような建物を、もう一つは、絶対的に教室が足りないから大教室も備えた建物をと、所がオリンピックの開催が決った時点から、職人の不足、建築費の高騰となったようで、もともとギリギリの予算でやろうとしていた計画だったので、予算にはいなくなりました。これでは百周年を借金だらけで迎えることなるだろうと規模を縮小することにしました。とにかく通年化の為にはまず教室棟を、次の計画は次の世代に任せよう。

綾部 どのあたりに建つんでしょうか。

野田 今大ホール棟と東棟の間に駐車場がありますが、その駐車場の所に、地下二階地上四階を計画しています。これから基本設計をお願いする段階になっています。

綾部 30年春に完成というお話でしたが…。

野田 それが、二棟を一棟にしたのだから早く完成することができるかと思っていましたけど、地下二階を掘るのが大変なんだそうです。31年4月入学者から四年間を江古田校舎で学ぶということなるでしょう。あくまでもこれはまだ計画の段階です。

綾部 設備の充実というのもさることながら、学部長が常々おっしゃっている、芸術学部精神風土、これを伝えることが大切ですね。

野田 先達がつくってくれたすばらしい風土は生かしながら、うまく次世代へ継いでゆく。入試の資料を見ていて思ったんですけどね、うちは第一志望が日芸という人、他の大学が受かってもうちにいくという人のパーセンテージがものすごく高いんですよ。66パーセントだか70パーセント位あってね。これは恐ろしい力ですね。他大学では20パーセントなんて所もあるんですよ。つまりこんな日芸をずっとくずさないで保っていったほしい。

綾部 勿論時代による変化というのはあるでしょうけどね。

野田 そう、その時代時代で変えてゆかなければならない部

分もあります。しかし、時代が変わっても、先生方変れども、基本にあるものだけは伝えられてゆく、育ててゆく基盤となる土壌がしっかりと根付いている、ということが大切なんですよ。

綾部 卒業生の感想文を読んでいると、私たちの時代と全く同じようなことが書かれていて、すごい先輩や友人に出会って切磋琢磨してきた中から今の自分があると。



野田 日芸賞の受賞者たちも同じようなスピーチをしていますね。

綾部 そうそう、野田学部長が始められた日芸賞はすっかり定着し、内外からも認知されるようになりましたが、もう何回目でしょうか？

野田 学部長就任の翌年からのので今年で9回目です。

綾部 新入生たちはあこがれていた先輩が目の前に現われて、自分の学生時代を語るのですから、全員目を輝かせていますよね。

野田 目標とする人、あこがれの人目の前にいるっていうことが一番良い刺激になりますからね。入学式で僕は、これから迎える四年間は、日芸の風土の中にどっぷりと浸ってすごして下さいと必ず言っています。

綾部 最後にお問い合わせがあります。今年熊本が三十周年を迎えました。これから古い順に周年を迎えますが、地方にあって支部校友会を支えてきて下さった方に、感謝状を送りたいと思います。その方々は、「校友会日芸賞」とでも呼ぶべき功績を残されました。どうか、この顕彰にお力添えをいただけないでしょうか。

野田 それはいいことですね。何なりとご協力できることがありましたら遠慮なくおっしゃって下さい。校友、校友会を大切にすると最初にお約束したのですから、僕にできることはお手伝いいたします。

綾部 心強いお言葉を感謝いたします。

本日はお忙しい中ありがとうございました。

まとめ 綾部 東洋子
写真協力 原 直久

第9回日藝賞記念講演

「世界の荒井良二」

荒井良二

6月19日 EB1教室において記念講演が開催された。野田学部長の挨拶、肥田不二夫デザイン学科主任の進行のもと始まった。

「絵本作家、イラストレーター、オブジェ作家等色々と呼ばれる肩書きの中に絵本があり、山形で育った子供のころは絵本も知らなく、また今ほど創作絵本もなかった。大学入学と同時に上京し書店で外国の絵本をみてびっくりした。本のある環境が好きで背表紙、背表紙のタイトルを読むのが好きだった。その書店の絵本コーナーは、まるで俺の本棚のようでいつでも沢山の絵本があり通い読みあさっていた。当時、「表現して世の中とつながり、社会とつながりたい。1点ものではなく印刷する

ことで皆さんに見てもらいたい」と思った。スウェーデンと日本の絵本に影響を受け、世の中にはすごい大人がいることがわかり、大人にしかられる大人になってほしい。」と言っていた。また余白をみるとよごしくなり、人とおなじことをすることや、つるむことを好まず、人とは反対に生きたいと意識してみたり、しかし、目立ちたいのかというと、じんわり目立ちたいタイプと自分を分析していた。

「仕事は自分のやりやすい方向へ持っていくことを考え、本はよく読むがそれから何かを得ようとは思ってなく、絵本は想像で描くことがほとんどで本物はあまり見ないで描いている。知名度が高かろうが低かろう

が、その世界では王道を行っている人は必ずいる。」このように講演の中の印象深い表現を拾い出してみたが、随所に荒井さんの人となりがかがわれる内容で興味深かった。

タイトルは「世界の荒井良二」となっていたが、始めは「荒井良二の世界」だったのを、だれでも世界でたった一人しかいないのだから自分に限らずということで「世界の——」にひっくり返したこと。いつの間にか、あの頭のくるくるとした髪と愛くるしい目の荒井良二の世界に私たちは、引きこまれていた。

会場は立ち見でいっぱいとなり、最後は質疑応答で不思議なエネルギーを感じる講演会だった。



「脚本家ですが、何か？」

中園ミホ

7月8日 EB2教室において中園ミホさんの記念講演が開催された。中園さんは、昨年度、NHKの連続テレビ小説「花子とアン」を執筆された。当日は、野田学部長の挨拶、中町綾子放送学科教授の進行のもと講演が始まった。

中園さんは、学生時代の自分はコンプレックスの塊だったと語る。「実習は苦手だったのですが、西沢実先生や天野祐吉先生の授業はすごく心に残っています。また、在学中に母親を亡くしたことは私の中でとても大きい出来事でした。あまりのショックに当時の記憶がほとんどないのですが、当時見た映画、ドラマ、小説のことは覚えています。辛い時にこそ、ドラマの台詞は私の心に響きました。」と自らの学生時代を振り返った。そして、「学生時代に負う心の傷は、後で必ず宝物になります。失恋でも失敗でも、人生では失う経験が人

を成長させます。後になってわかります。だから、失うことを恐れる必要もないし、立ち直るのに焦らなくていいと思います」と語りかけた。

脚本づくりについても盛りだくさんに語った。中園さんは、数多くのドラマで魅力的な登場人物を生み出している。「世の中には真っ白な人も、真っ黒な人もいない。だから人間って面白い」という言葉には、その魅力の理由が垣間見える。

『ハケンの品格』、『ドクターX』と大ヒット作の制作秘話も語られた。「取材が好き。人見知りで緊張するが、でも本音を聞きたい」と話す中園さん。どの作品でも、取材で得た言葉を託すことになる主人公のキャラクターには強くこだわっていて、「どんなヒロイン、どんなキャラクターにするか。そこはいつも、のたうちまわって考えています」と明かした。

最後には、学生からの熱心な質問

が続いた。恋愛ドラマが減っている状況について聞かれると、「とても危機感を募らせています。もっと若い人に恋愛ドラマに興味を持って欲しいです。若者の恋愛離れが進んでいると言われる中で、その若者の背中を押すのは恋愛ドラマのはず」と力強く答え、満員の会場からは大きな拍手が沸き起こった。



平成27年度校友会総会

平成27年度日本大学芸術学部校友会総会が6月20日(土)午後5時よりE101教室において開催された。

総会は綾部会長の挨拶、続いて議長に小泉定弘氏(写41卒)、副議長に南岡秀男氏(写46卒)、書記に西垣仁美氏(写58卒)を選出、議事に入った。議長より会則10条により会は成立する旨の報告があった。会務報告(茅原常任幹事・総務代理)決算報告(宮澤常任幹事・財務)監査報告(監事代理・田上副会長)予算案審議(宮澤常任幹事・財務)と進行了た。

26年度の決算書作成まで経理担当をしていただいた三浦清之助氏(旧制24卒)より高齢のため経理担当を今年度限りで辞退したいとの申し出があったことの報告があった。来年度より経理を担当していただく税理士(地元で税理士事務所を開いている)大谷博子さんを紹介された。

質疑応答では、いくつか建設的な意見がかわされた。

いずれも原案通り拍手を持って承認された。

規約改正について。原副会長より

別紙の通り改正案が説明された。建設的な意見を皆さんより頂きながら、改正案賛成多数で承認された。その他として。経理担当をしていただいた三浦清之助氏への感謝状授与の様子をビデオで流し労をねぎらった。

引き続き学生食堂にて懇親会に入った。

司会進行は高橋比奈子氏(放55卒衆議院議員)にお願いした。

野田慶人学部長、干場文夫(音50卒)石川江古田会幹事による日大校歌斉唱。会場で皆さんと共に歌いはじめての試みだった。

引き続き河野英一日本大学副学長、瀬川一之日本大学校友会本部事務局次長の挨拶、さらに、今年度は他学部13学部の校友会をご招待しての懇親会で会長より一人一人紹介された。小野卓事務長の乾杯で始まった。

途中、アトラクションがあり、演劇学科日舞コース4年生の小岩井杏奈さんによる日舞「五万石」他踊りが披露された。

学内執行部、課長職以上の皆さんにもご出席頂き、楽しいひと時を過ごした。

平成27年度(2015年度) 予算

収入之部		
勘定科目	摘 要	金額(円)
本部よりの会費	4,000円×4,000人=16,000,000	16,000,000
校友会幹事会費	5,000円×300人=1,500,000	1,500,000
雑 収 入	総会懇親会会費・新年顔合わせ会費等	700,000
収入利息		30,000
合 計		18,230,000

支出之部		
勘定科目	摘 要	金額(円)
総 会 費	懇親会	300,000
諸会議費	常任幹事会・諸会議	230,000
消耗品費	ゴミ袋・洗剤・ガムテープ・雑巾 他	10,000
事務用品費	ファイル・ノート・プリンター・インク・コピー用紙 他	40,000
通 信 費	会報発送(在校生・卒業生) 総会・会費請求切手 他	5,000,000
補 助 費	学科同窓会・幹事会・総会・芸術祭・卒業生を送る会支部補助(16支部×5万円)支部出席祝儀	1,470,000
寄付分担金	本部校友会分担金・日本大学創立130周年記念事業募金・スポーツ振興会	450,000
印 刷 費	会報・総会・幹事会・終身会費登録費請求書 他	2,100,000
人 件 費	事務局員給料・アルバイト代・人材派遣	4,500,000
法定福利費	労働保険・社会保険・雇用保険	750,000
旅 費・交通 費	支部出張費・宿泊費・事務局員通勤定期代 他	1,400,000
租税公課	利子税	10,000
本部役員会 費	年会費(本部副会長5万・常任委員2名各3万・委員3名各2万)	170,000
交 流 費	新年会・他学部支部交際	800,000
活 動 費	学生諸活動支援・バッジ・ストラップ	200,000
機械維持管理 費	メンテナンス及びホームページ改良コピー機リース(21,824円)	250,000
雑 費	会報取材費・貸金庫代・スタジオマイデザイン料 他	400,000
業務委託	中間・決算・期末決算	150,000
減価償却費		
合 計		18,230,000



皆さん今日は！

平成27年度総会返信の近況報告を掲載いたしました。無断で掲載させて頂きましたことお詫びいたします。(順不同)()内は学科卒業年度です。

●赤野眞(旧制20年度卒)

九十歳は悲しからずや。友人たちはあの世に皆去って行った。一人夕食に向いて懐かしき歌を心の中で歌っている。

●村田博信(旧制25年度卒)

校友会ニュースを楽しく見ております。最近私の足の調子が悪く重いカメラを使うことと、行動力が弱くなり写真を撮ることが出来ず残念です。今は専ら花や植物の写真を撮って楽しんでます。皆様によしくお伝えください。

●久保靖夫(写真学科33年度卒)

日本大学卒業後、東京の都市を私の人生は「戦後昭和時代」明快に記録しています。その後も取材しています。2011年3月11日の東日本大震災という大災害。この記録を「ニューヨーク国連本部ビジターズロビーで写真展をグループで開催しました。

●谷口勲夫(写真学科37年度卒)

北海道新聞社を2000年に退社後道新文化センターで写真講座(カルチャー)を始めて15年後期高齢を迎えましたが楽しくやっています。

●三村吉郎(写真学科37年度卒)

カメラマン稼業(産経新聞)を卒業して20年。施設長、調停委員など写真と関係ない仕事に従事。昨年は京都の大学のアメリカンフットボール部から撮影依頼を受けデジカメと悪戦苦闘。75歳の後期高齢者のスポーツカメラマンとしてグラウンドに立っています。

●清水栄(写真学科46年度卒)

私も67歳になり機材の重さが身に

こたえるようになりました。日芸時代からN社の1眼レフを愛用してきましたが、歳には勝てずミラーレス1眼を使うようになりました。2020年のオリンピックまでは撮り続けます。

●玉井隆昭(写真学科55年度卒)

現在、福祉関係の仕事をしており、その関係で先日、練馬区役所へ訪問した際、2階の廊下を何気なく通り過ぎた時に大きな写真に目が行きました。なんと写真学科の在校生の健康をテーマにした作品でしょうか？よく見たら、女子学生のみ作品。以前なら男子が優勢だったのでしょけれど、女子の強さと表現力に感心して、仕事そっちのけで見入ってしまいました。我々の時代はまだまだ、モノクロの世界でしたが、カラーはカラーなりの表現力の難しさもあるでしょうし、感慨無量でした。

●長谷山太刀夫(映画学科32年度卒)

傘寿を迎えお陰様で極めて健康に過ごしています。同期の旧友と懐かしい日々の想いを語り合いたいと思っていますが、中々…。

●美野田肇(映画学科39年度卒)

福岡江古田会会長として3年目を迎えました。「若手会員の入会と会の存続」等クリアしなければならない課題が山積しています。老骨にムチを打ってガンバリます。

●井下啓子(映画学科41年度卒)

役員の方、ご苦労様です。会報いつも楽しく読ませていただきます。卒業してあと2年で50年。先日も学友達と昔話をしました。映画は少人数で

したのでなんとなく50年つながっています。

●清水勝(映画学科41年度卒)

何とかやっております。足腰がまだなんとかなるうちに一度江古田の街を散策したいと思っています。最後に会の御盛況をお祈りします。

●相沢健一(映画学科48年度卒)

一度校友会の総会に出席したいと思いますが、中々日程があわなくて申し訳なく思っています。私ももう64歳です。校友会報を見ていてうらやましいことがあります。静岡江古田会も是非創立できたらと思っています。

●橋本清一(美術学科35年度卒)

所属美術協会の公募展を関東・関西のデパートでの個展その間はパリのアトリエでの制作で日本を留守にすることが多く、何年も何年もこの会には出席したことがなく残念に思っています。

●有原拓(美術学科36年度卒)

ユネスコ公認モナコ、日本招待展出展アルベール大公10周年記念展にてモナコの薔薇賞受賞。麗人社芸術文化使節団員に任命される。

●木下伸弘(美術学科42年度卒)

日芸卒業と同時に勤務した長崎日本大学高校を昨年3月末をもって退職しました。46年間の勤務と日芸の学生時代の4年間を加えると丁度50年、日本大学の各々の下で暮らしたことになります。

●後藤欣久(美術学科44年度卒)

我が宮崎江古田会総会6/6(土)に開催されます。今回は学部長、校友会

会長が出席できず残念ですが、何とか14～15名集まるようでホットしています。6/20総会が盛況でありますよう心より祈念いたします。お疲れ様です。

●宮澤賢一(美術学科44年度卒)

現在一般社団法人日本画府に所属(参事)昨年10月銀座のギャラリー暁にて個展を開催。本年葛飾区美術会にも参加(会員)。

●山口昭二(音楽学科25年度卒)

江古田校舎の青瓦の屋根が懐かしく思い出されます。我らやんちゃ小僧がむしろ大勢たむろしていましたが今となっては日大芸術学部音楽学科卒業を誇りに思っております。88歳6ヵ月今でも日本の音楽展と洋楽寄席に出演しがんばっています。

●村田和子(音楽学科34年度卒)

合唱活動40年。今年6月ドイツ、日本(新座市)との友好姉妹都市の功労をドイツノイルッピン市の市長から表彰を受ける。地元(新座市)とドイツ(ノイルッピン市)との文化交流の架け橋として合唱団と共に訪独する予定(6/19～6/28)クロスター教会にて演奏会の予定。

●筋田典代(音楽学科57年度卒)

地元のジュニアオーケストラを発足させて早14年目。病気で途中団員たちに任せて休んだ時期もありましたが、失わずに残って活動しています。ボランティアですが人との繋がりが大切で価値あることだとやっとわかるようになりました。

●武者裕子(音楽学科平3年度卒)

教職生活も24年目を迎えました。日々仕事に追われこれでいいのかと自問自答。そんな時に日芸での友人に会うとホットします。日芸を卒業できたことに誇りをもっています。

●中野亜維里(音楽学科平21年度卒)

東京芸術大学大学院オペラ科3年に在籍中です。子供2人育てながら頑張っています。

●坂崎侃士(文芸学科40年度卒)

マスコミ業界での後輩のご活躍を大変よろこんでおります。当方も学部卒業後誇りを持って生きております。

●原田嘉行(文芸学科40年度卒)

文芸学科で講師をされている「三田文学」前編集長の加藤宗哉先生より文芸学科の学生は良く勉強していて楽しく授業をしているとお聞きし、自分の頃はと自反しながら嬉しく思いました。

●石川千穂子(文芸学科52年度卒)

「世界の神話大図鑑」に続き、「日本の神さま大図鑑」(PHP研究所)を刊行します。アマテラスやスサノオなど日本神話で活躍した人間的な神さま達のビジュアル図鑑です。

●小柳安夫(文芸学科56年度卒)

愚直な性格から「継続は力なり」をモットーに揚げ卒業と同時に入社した会社で勤続34年目を迎えました。文芸学科非常勤講師(ゼミ)を排命してから21年目となります。会社に対して母校に対して何か恩返しが出来ればと57歳の老骨にムチを打っています。

●元山掌(文芸学科59年度卒)

書店売りDVD付マガジン「東宝・新東宝戦争映画」「大映特撮映画」と児童・少年誌の復刻版出版などに携わっております。幼稚園入園と同時に全国を席卷した1966年(昭和41年)の怪獣ブームから来年は50周年。戦後テレビ世代のマスコミ怪獣産業の検証が行われるでしょう。

●東川稔(演劇学科32年度卒)

民間放送に関わって60年。満82歳

現在、日本民放クラブ副会長(東京)四国民放クラブ会長(四国)民放仲間の世話役です。

●二瓶長記(演劇学科36年度卒)

現在、人生の集大成をしてこれまで「まちおこしドラマ」の台本の中から選びぬいた台本集の出版を考えています。「まちおこしドラマ」に関心のある方はお気軽に連絡を。

●植村家忠(演劇学科39年度卒)

本年4月から校友会奈良支部長に就任しました。よろしく願います。仕事の方は相変わらず行政の長は忙しくなかなか校友会等への出席は叶いません。総会のご盛会をお祈り致します。

●浅利和子(演劇学科41年度卒)

今年「女優生活50周年」を故郷秋田で4時間半の公演を秋田市文化会館内で800席満席で終えました。演劇一筋の50年は短いような長かったような、これからも大切に丁寧に良い役者でいたいと思います。

●石井智子(演劇学科平1年度卒)

10月24日、25日シアター 1010にて石井智子スペイン舞踊公演「ラ・ペテネーラ」を開催いたします。スペインからも4人のアーティストを招聘し、出演者総勢50名を越える大作となりそうです。舞台作品作りは在学時代に学んだ事が大いに生かされていると感じている今日この頃です。

●福島一樹(放送学科38年度卒)

昭和35年放送学科入学同期会は、昨年卒業50年を記念し、懐かしい江古田で開催しました。学部長のご好意により学生食堂を提供していただき41名が集いました。変貌した施設に驚き時の過ぎゆくさを改めて感じた次第です。今年も同期会は10月

に開催いたします。

●春川州一(放送学科42年度卒)

卒業47年、学科の同期会を予定して楽しみにしています。昨年は大学祭の会場集合でした。本年はどうか？毎日自家農業を楽しんでいます。長野江古田会も楽しみです。

●町井新一(放送学科45年度卒)

昨年から練馬区の川柳クラブに入会。以前からの趣味の木彫、及び映画

鑑賞等、結構忙しい日々を送っています。年に何回かは同窓の旧友たち共に会ってます。

●大河原儀明(放送学科53年度卒)

2015年5月いっばいで定年退職となりました。今後はシニアスタッフとして現場に戻ります。久しぶりのアナウンサーです。リハビリをしながら徐々に慣れて行きたいと思っています。

●森本茂樹(放送学科58年度卒)

局アナ生活32年目で相変わらず現場を走り回っています。時間を作って是非母校へ顔を出したいと思っています。



永い間ありがとうございました



昭和50年度より41年間校友会の経理を担当していただいた三浦清之助氏(専門24年度卒)より高齢のため校友会の経理・監督の仕事を辞退したとの申し出があり26年度決算書作成をもっておやめになりました。

河合会長時代から担当して頂き校友会の会計が適正に行われる基礎を作って頂き、今日まで校友会の会計が厳正に行われてきました。

永い間、ありがとうございました。

後任は地元江古田で税理士事務所を開いております大谷博子さんにお願い致しましたところ快くお引き受け下さいました。

今後ともよろしくお願い致します。



三浦 清之助 氏



大谷 博子 氏

石川江古田会設立総会開催

4月18日(土) 於:ANAクラウンプラザホテル金沢

校友会に19番目の新たな支部「石川江古田会」が加わりました。北陸地方では初の支部となります同会の設立総会と懇親会は4月18日、北陸新幹線開業の熱気も冷めやらぬ金沢駅前のANAクラウンプラザホテル金沢にて開かれました。

同会は県内出身者と在住者計33名で発足。昭和39年卒から平成19年卒まで幅広い世代から会員が参加しています。

総会では支部長に北門 喬氏(文芸)、副支部長に小野薫三(写真)、山田文彦(映画)の両氏、ほか全8名の役員が選出され、会則などの議事が承認されました。就任の挨拶に立った北門氏は「会員間の親睦を深めると

ともに、地域の芸術文化の向上に貢献する会に育てていきたい」と設立への思いを語りました。

来賓として野田慶人学部長、綾部東洋子校友会会長、豊島紘武、田上竣詞両副会長をはじめ、各支部や日本大学校友会石川県支部からも多くの出席をいただきました。

閉会にあたって記念撮影が行われ、小野薫三副支部長によってカメラに収められた和やかな写真が後日、全員の手元へ届けられました。

続いて同会場にて懇親会が開かれ、野田慶人学部長をはじめ、大友佐俊日大校友会石川県支部長、石田忠夫石川県議よりご祝辞を頂戴し、改めて学科を超えた日大の絆の大きさ

を再認識させていただきました。

野田学部長はお祝いの言葉とともに、学部の発展に校友会の果たす役割の大きさについて語られ、今後の活動への激励をいただきました。

乾杯、祝電の披露に続いて、来賓の方々や有志によるスピーチが行われ、学生時代のこと、それぞれの現況、新校舎のことなどの話題に花を咲かせ、楽しいひとときを過ごしました。

最後に出席者一同で日本大学校歌を斉唱し、今後の発展を誓い合うとともに盛会のうち閉会となりました。

幹事 干場文夫(音50卒)



第7回ふくしま江古田会総会開催

5月16日(土) 於:姑娘飯店

5月16日(土)郡山市駅前の姑娘飯店に会員19名が集い第7回総会を開催した。

来賓には野田慶人学部長、豊島紘武校友会副会長、高松ゆたか校友会常任幹事を始め、日大校友会福島県支部から加藤木研幹事長、大越務副幹事長が出席されお祝いのことばを頂いた。

挨拶に立った島崎恒夫会長は「第1回アート展は好評だった。大震災と原発事故の被災地から“ふるさと再生”への元気発進を示すことが出来

た」と述べ、次いで吉田公之副会長から第2回アート展を来年6月に開催したいとの提案があり了承された。そして会報7号で作品募集を呼びかけ、芸能発表も視野に入れて準備にとりかかることとなった。

なお、任期満了による役員改選は現役9名が再選された。

続く懇親会では、県内主要4都市および東京からの会員出席は初めてのことであって近況報告や在校時の思い出で盛り上がり盃を重ねながら親交を深めた。

席上、野田学部長から「芸術学部100周年を成功させよう」との呼びかけがあり、全員が拳を高く掲げて母校の発展に尽くすことを誓った。

会長 島崎恒夫



「九州江古田会」設立を提案～福岡江古田会総会～ 5月30日(土) 於:福寿飯店

平成27年度福岡江古田会総会が5月30日(土)中央区大名の華風「福寿飯店」で開催されました。総会では平成26年度活動および会計報告、また新年度の事業計画及び予算案が異論なく全会一致で承認されました。

記念撮影の後、懇親会に移り、野田学部長、綾部校友会長のご臨席のもと熊本(奥村)、佐賀(音成)両会長そして昨年に引き続き、鹿児島からお二人の校友を迎え総勢31名で開かれました。

特筆すべきは若手校友5名の初参加があったことです。会員の高齢化が進む福岡江古田会にとっては、こ

の10年ほど参加するメンバーがほとんど変わらず、次世代への継続が最大の課題となっていますが、5人の若手が会員となってくれば前途に一筋の光明となります。また、「眠りから覚めて?復活が期待される」鹿児島から参加下さったお二人からも「近々実現したい」との発言がありました。

最後に私から「九州江古田会」設立の提案をし、多くの賛同を得ることが出来ました。この提案に対して野田学部長から「大いに賛成だが、上層部だけの繋がりではなく会員全員が参加できる会を目指してほしい」と

のアドバイスをいただきました。長崎、大分など未だ江古田会が結成されていない校友も個人で加われるような実のある「九州江古田会」が誕生すれば、私の長年の夢が叶います。

会長 美野田肇(昭40年・映画卒)



第15回福岡江古田会アート展

5月28日～6月2日

第15回福岡江古田会アート展を、5月28日から6月2日までの6日間の日程で開催いたしました。

会場の福岡アジア美術館は、周りに博多座やホテルオークラなどがあり、福岡市内でも有数の立地です。

今回はアート展が始まって15周年ということもあり、会報誌「なんしょーとね」などを通じて、広く参加を呼びかけたところ、全国から多数の参加がありました。

100号を超える絵画、大伸ばしの写真プリント、デザイン、陶芸など、新しいメンバーを加え、いつもに増してバラエティーに富んだ展示になりました。

丹野章氏(写真学科 昭和44年卒)の「怒る沖縄人」の力強さ、迫力に圧倒され、菅裕介氏(美術学科 平成9年卒)の「明日のご用意の精」のやさしい作風に癒され、参加者皆の世代を超えた創作への意欲を強く感じま

した。

東京、埼玉、大阪、岡山、鳥取、山口、九州各地から、ご賛同出展いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

他の江古田会同様、会員の高齢化の問題をかかえている福岡ではありますが、苦しくも楽しいアート展を、今年も無事終わらせることができ、心はすでに来年へと向かっております。

西島善和 写真学科 昭和56年卒



宮城江古田会総会開催

6月6日(土) 於:仙台屋

平成27年度の宮城江古田会総会は、6月6日(土)仙台市の「仙台屋」にて、野田慶人学部長、綾部東洋子校友会会長、國分一彦岩手江古田会会長、深松勇日本大学校友会宮城県支部長をお招きして開催されました。

今年の総会には定年を契機に仙台に戻って来た宮崎晴夫さん(S54年度卒・美術)が初めて参加し、総勢18人のにぎやかな総会となりました。総会では、綾部東洋子校友会会長からご挨拶をいただいた後、平成26年度の活動報告・会計報告、そして本年度の活動計画・予算が承認されました。宮城江古田会は今年設立27周年です。3年後の設立30周年の際には20周年の時に開催した「アート

フェスティバル」を再び開催したい、との話も話題に上りました。

懇親会では野田慶人学部長からご挨拶をいただきました。この中で、現在進行している芸術学部江古田一体化の計画や、都市部の私立大学への学生集中を避けるために文部科学省が方針を決めた、入学定員超に対する補助金減額についての話をされました。人口減が招く大学の現状・問題点を改めて浮き彫りにするお話でした。この後、全員から一言ずつスピーチがあり、芸術活動を続けている参加者からのPRもありました。「高橋咲千子ピアノリサイタル」「クローバーの会～はあとふるコンサート」「朗読ライブ～言葉のいろ 音の

かたち」。

卒業してプロとして活動している人、あるいは趣味として続けている人。その形はさまざまですが、長い時間が過ぎても、あの学生の頃の気持ちはずっと心に生きているみなさんでした。

事務局長 酒井健樹



宮崎江古田会総会開催

6月6日(土) 於:杉の子

平成27年度宮崎江古田会総会は6月6日土曜日、宮崎市の郷土料理店「杉の子、桃太郎の間」にて開催されました。まず総会では平成26年度の会計報告、新年度の事業計画(機関紙「どげんしょっと」の原稿依頼呼び掛け)など昨年と同様、全会一致で承認されました。記念撮影の後、懇談会に移り、今回久しぶりに宮沢誠一学部次長が野田学部長の代理として隣席のもと、宮崎日本大学学園理事長後藤信一様、日本大学校友会副支部長 渡邊和宏様を含め総勢13名で開催されました。今回は支部の来賓もなく残念でしたが宮沢学部次長の

久々のスピーチに一喜一憂、大学運営の厳しさ、少子化対策等々、さらに昔、宮崎県より依頼を受け取材に来た事など思い出深いお話でした。宮崎日本大学学園から今回生え抜きで新理事長に就任された後藤信一様からは創立50周年を迎えた今、中学高校の生徒達が活躍している事や、就職、進学も目標通りに進んでいる事など、又、日本大学校友会副支部長 渡邊和宏様から校友会創立60周年を迎え今年1月式典と懇親会を無事終えた今、記念誌編纂中であるなどお話を伺った。乾杯の発声は今回参加唯一女性の竹井倫世さん(H8放送学

科)よりいただき懇談が始まった

恒例の3分間スピーチ、ビンゴゲームなど楽しく賑わいあっという間に終宴となりました。

会長 後藤欣久(美術学科44年卒)



山形江古田会総会開催

6月13日(土) 於:山形グランドホテル

芸術学部校友会山形県支部(山形江古田会)の平成27年度総会が、山形グランドホテルで開催されました。

来賓として、野田慶人芸術学学部長、綾部東洋子芸術学部校友会

長、伊藤剛日本大学校友会山形県支部支部長、日本大学山形高等学校からは佐々木敦経理事長(中村薫校長代理)、の方々をお招きしました。会員15名の参加と、在学生父母の参加も

あり、賑やかに開会しました。来賓祝辞と紹介に続き、会計決算報告と監査報告があり承認されました。総会は、例年通り迅速に閉会しました。

引き続き、同会場で皆さんお待ち

かねの懇親会が開会しました。日本
 大学校歌斉唱から始まり、来賓祝辞
 に続き乾杯の後、懇親に入りました。
 今年も又、平成22年度卒業会員を含
 め2名の新参加者があり、参加者平均
 年齢がとて低くなりました。世代
 を越えた「日藝」の強いつなかりに
 「江古田」の街への思いが重なり、温
 かい会場になりました。

後半になり恒例の会員近況報告、
 1分で終わらない「1分間スピーチ」の
 開始です。しかし今年も又、井澤聡

(放送・昭和62年度卒)幹事の絶妙な
 司会により、たいへん盛り上がりな
 がらもちょうど良い時間に収まりま
 した。又、この日は佐藤美喜子(音楽・
 昭和57年度卒)監事の誕生日で、全員
 で祝いました。平成年度卒業の会員
 参加も増えて、楽しく、明るく、元気
 よく、会は進行しました。時間の速さ
 を感じながら、須藤一之(放送・平成
 2年度卒)幹事長の正調「山形花笠縮
 め」で中締め閉会となり、ほとんどの
 参加者が二次会へと進みました。そ

して三次会へ四次会へと、山形の夜
 は更け、やがて日付は変わってゆき
 ました。

支部長

横倉晋也(美術・昭和52年度卒)



熊本江古田会総会開催 30年目の総会

7月4日(土) 於:アークホテル熊本城前

熊本江古田会は1985年に発足しま
 した。7月4日(土)の今年の総会は30
 回目の記念の集まりになり、今年も
 野田学部長、綾部校友会会長にも参
 加いただきました。今年の出席者は
 来賓も含め、27人で、それぞれ楽し
 い時間を過ごしました。

ところで、今年は大きなサプライ
 ズがありました。綾部会長のご提案
 で、会設立当初に尽力された方々5
 人に、本部校友会名で感謝状を贈っ
 ていただきました。熊本県の吹奏楽
 連盟で活躍された木田 匡英さん
 (音・昭和37年卒)に野田名誉会長名
 で、他4人の方、池田 義一さん(映・
 昭和34年卒)、奥村 輝也さん(写・
 昭和34年卒)、植村 尚義さん(映・
 昭和37年卒、体調不良で欠席)、樽井
 栄治さん(映・昭和53年卒)には綾
 部会長名の感謝状が贈られました。
 会場は大きな拍手と共に、出席者一
 同、大感激の時間でした。感謝状を受
 け取った中で、日大校友会活動に関

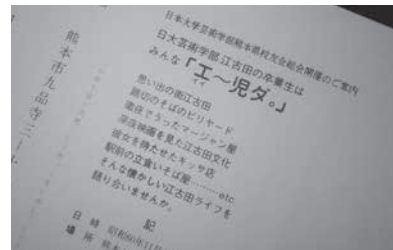
わっていた樽井さんは30年前、熊本
 江古田会発足に向けて先輩と一緒に、
 地道に校友探しの作業を行って、
 今回感謝状を贈られた方々や多くの
 先輩たちと共に1985年11月に熊本江
 古田会発会式を開いたことなどを
 話、一回目の芸術学部校友会開催案
 内のハガキや写真と多くの資料を会
 場に持参して「ワァー物持ちのよか
 なあー」など出席したメンバーを驚
 かせました。また今回の感謝状につ
 いて樽井さんは「江古田会設立に大
 変尽力された故下川 尚 先輩(写・
 昭和31年卒)とともに、いただいたと
 思っています」と喜びを語りました。



30年前に熊本で始まった江古田
 会の名称は今や、全国、さらに台湾、
 韓国、中国にまでひろがり、熊本の
 メンバーはちょっと自慢に思っ
 ています。この会の良いところは、江
 古田で過ごした誰でも、初対面でも、
 年齢に関係なく、楽しい話が
 出来るフンイキがとても素晴らしい
 と思います。このような会がない県
 は寂しいと思います。まだのところ
 やまだの人は江古田会に仲間入り
 される事をおすすめします。楽しい
 ですよ！

ところで熊本江古田会は30周年
 記念展を九州各県の江古田会など
 の協力も得て、9月23日から熊本市
 のギャラリー「アートスペース大宝
 堂」で開きます。

熊本江古田会
 会長 奥村 隆志



佐賀江古田会総会開催

7月5日(日) 於:旅館あけぼの

第14回の佐賀江古田祭り(佐賀江古田会総会)を、野田学部長、綾部校友会長、熊本江古田会の奥村会長、福岡江古田会美野田会長、それに10数年ぶりに復活することとなった鹿児島江古田会から堀之内さんにも出席をいただき、7月5日(日)、佐賀市の旅館あけぼので開催することが出来ました。

毎年総会後には、原田さん(S43音楽)のライブハウスへ直行。原田さんのピアノの演奏等で賑やかに楽しんだものですが、その原田さんが総会の直前に亡くなられたということ、懐かしみ黙祷をささげました。

総会では、まず、野田学部長から、前日の熊本江古田会からの引き続きということで、同じ話となりますがとお断りの後(笑)、今後の学部在り方・展望について、綾部会長からは、今後も活発な活動をと叱咤激励を受けました。佐賀の会員が7名しか参加できず寂しい総会となりましたが、今後、新会員を含め参加者を増や

していくことを確認し、少人数ながら賑やかに開催することが出来ました。

恒例の会員による講演では、久我さん(S59写真)が、運営プロデューサーを務め、佐賀の地域活性化を目的に結成した、地元・佐賀の女の子たちによるアイドルグループ「地域活性化応援団 佐賀乙女みゅー☆スター」の、誕生までの経緯と活動について熱く語り、一同、今後も佐賀を盛り上げて元気にしていこうとする彼女たちへの応援を約束しました。

また、佐賀の総会後に10数年ぶりに復活することとなった鹿児島江古田会の堀之内さんとも話が弾み、



当初はスケジュールが合わず欠席の予定だった鹿児島江古田会設立総会へも、音成会長が調整し参加することを約束。鹿児島江古田会の復活で「九州江古田会」を目指し、まずは、福岡・熊本・佐賀の合同の江古田会を開けるようになればと確認しあいました。

そして佐賀のメはラーメン。熱い麺をすすりながら佐賀の夜は過ぎていきました。猛暑の中、参加していただきました皆様、ありがとうございました。また来年お待ちしております。

佐賀江古田会事務局
土井洋(写49卒)



再開 鹿児島江古田会総会開催

7月11日(土) 於:レクストン鹿児島

「いやあ楽しい時間でした。」久しぶりの再開に、芸術学部OBの面々は顔をほころばせ旧交を温めた。鹿児島江古田会の発会式が7月11日に鹿児島市で開かれた。鹿児島江古田会の発会式は実は2回目である。というのも平成15年に一度発足しているのだが、その後、尻切れトンボとなり休眠状態であった。再び日の目を見ることになったのは、OBからの強い要望と、学部長の出身地が鹿児島であるという認識からだった。

芸術学部の個性は「一人静かに〇〇をする」ではないだろうか。一人静かに作陶に励み、一人静かにコピーを練る、一人静かにマイクに向かっ

て聴取者に呼びかける。一人静かに騒ぎ立てる人もいるかも知れない。その県内各地に隠れている「一人静かに〇〇をする人」を探し出すのがなかなかだった。一昔前の名簿はあるにはあったが、世界なされた方や連絡のつかない方が多く先行きが心配された。



電話作戦やハガキ作戦が奏功したか、当日は15名の方の参加があり、来賓を含めると25名になった。東京からは、野田慶人芸術学部長、宮澤誠一学部次長、綾部東洋子芸術学部校友会長にお越しいただいた。九州各県の江古田会から、美野田肇さん<福岡>、音成日佐男さん<佐賀>、奥村隆志さん・川村晃生さん<熊本>・長嶺宣之さん<宮崎>が、また、日本大学鹿児島県支部からは倉園一雄支部長が出席して下さった。美野田さんと黒江克彦さん<鹿児島>は、家族ぐるみのおつきあいという間柄もあって奥様も参加され、発会を祝っていただいた。

総会では、野田学部長から学部の近況報告や綾部校友会会長のご挨拶があり、鹿児島江古田会の会長に中野順さん、事務局長に堀之内隆<筆者>を選出し、今後の活動を誓った。懇親会は大いに盛り上がった。並ん



だ料理の中には、野田学部長の大好き物「かつおの腹皮」が登場し、余興では佐賀江古田会の音成さんの「佐賀にわか」が飛び出した。奄美の島唄も華を添えた。

多くの異なる学科の集まる藝術学部は、まるで多業種複合企業だ。呼応するように、当日の出席メンバーも多士済々だった。映画俳優あり、アナウンサー、カメラマン、美術の先生、陶芸家、市議会議員、私のようなサラリーマンあり。皆さん、懐かしく江古田を思い出し、話が尽きなかった。うれしかったのは、女性のメンバーが

いたことと、20～30代の若手が集まったことだ。藝術学部の発展を祈りながら、鹿児島江古田会も大いに活動を広げていきたい。

<事務局長 堀之内隆>



青森江古田会総会開催

7月18日(土) 於:アップルパレス青森

平成27年度青森江古田会の総会は、例年の1週遅れで7月18日青森市のアップルパレス青森で開催した。出席者の予定は12人。そのうち女性会員3人出席の申込があつて、華やいだ総会が期待されたのだが、その内の2人が姿を見せず寂しい総会のスタートとなった。

総会ではまず、高木保支部長が開会を宣言。続いて来賓とし校友会副

会長の豊島紘武さんのご挨拶があり、先頃江古田キャンパスで開かれた総会の模様などを報告された。その後、高木保支部長から26年度の活動状況と、会計実績の報告があつた。続いて当日欠席の鈴木義勝監事に代わって高坂進事務局長が監査の報告をし、審議事項すべて全会一致で了承された。

和光弘幹事の乾杯の音頭で始

まった懇親会では、初参加と新入会の2人の女性会員がまだ姿を見せず、予定していたスピーチを省略して酒宴に移った。

懇親会の目玉は、お楽しみプレゼント。今回は前々回好評の江古田会会員の手によるグッズのプレゼントで、最近白泉社から出版された山内史子さん著(文芸平成元年卒)の『ニッポン「酒」の旅』や、我らの大先輩・菊谷栄を文化人類学者の故・山口昌男さんが書き残した『エノケンと菊谷栄』(晶文社)、更に日芸賞受賞作家の林真理子さんのベストセラー『白蓮れんれん』などが次々と当たり、全員ハズレのない総当たりとあって会場を大いに沸かせた。

中締め間際に新参加の駒井亜佐美さん(放送平成15年度)がテレビの仕事のために遅れて現れ、挨拶回りに忙しく、交流はもとより飲み食いも出来ぬうちに時間切れ。一番若い会員が入会し、平均年齢が下がった事を喜びつつ閉会となった。

青森江古田会会長
高木保(演劇32年度卒)



新潟江古田会総会開催

7月25日(土) 於:ANAクラウンプラザホテル新潟

日本大学芸術学部校友会新潟江古田会の平成27年度総会が7月25日新潟市のANAクラウンプラザホテル新潟で開催されました。

野田芸術学部長並びに綾部校友会会長からもご出席頂き、会員11名とともに楽しいひとときを過ごさせて

頂きました。

なかなか若手の会員の出席が伴いませんが、集まれる会員だけでも元気で活動を広げていこうと思っています。

新潟江古田会会長
増井伸一(写真48年度卒)



第20回北海道江古田会総会開催

8月1日(土) 於:札幌 東急REIホテル

平成27年度の北海道江古田会総会・懇親会が、8月1日(土)午後6時より、札幌東急REIホテルにて、会員、来賓、合わせて36名の出席と、芸術学部からは、綾部東洋子校友会会長、野田慶人学部長をお迎えし、盛大に開催されました。

総会では、蓬田支部長の挨拶の後、牧議長のもと、役員の任期満了にともない、役員改選が行われ、氏家事務局長が、北海道江古田会の新支部長に選出されました。

引き続き総会が進められ、氏家事務局長、斗澤会計幹事より諸案が説明され、満場一致で承認されました。

成田フォトサービスの記念写真撮影の後、56年音楽学科入学の山上淳子幹事の総合司会により、日本大学校友会札幌支部長の加藤欽也様の乾杯で、懇親会がスタートしました。

来賓挨拶では、綾部会長より校友会の新しい支部の紹介や、現状について、野田学部長からは、芸術学部の今後の取り組み等について、お話をいただきました。

宴会は、57年放送学科入学の、大神政敏新事務局長が、担当しました。

トップを飾ったのは、ドイツ留学の経歴がある、平成10年音楽学科入学の、竹形貴之幹事で、クラシックギターの見事な演奏を奏でいただきました。

続いて、46年写真学科入学の原俊彰新幹事長は、去年に引き続き、見事な手品を披露し、会場を盛り上げていただきました。

今年は、ビンゴゲームを行い、高額商品券やニッポンハム詰め合わせ、札幌テレビ放送グッズ、北海道放送のものすけグッズ、また、出席できなかったでしたが、函館湯の川プリンス

ホテルの河内孝善幹事から、景品が届くなど、最高の盛り上がりの中、宴会が行われました。

また、毎年評価の高い、素晴らしい校歌斉唱も披露されました。

楽しい時間は、瞬間に過ぎ、北海道江古田会、最高顧問の札幌日本大学学園 浅利 徹理事長の締めにより、お開きとなりました。

また来年、元気で皆様と再会できることを祈っています。

北海道江古田会会長
蓬田秀泰(音楽学科41年度卒)



愛知江古田会 設立準備中！会員募集！

非公式とはいえ、発足以来40年にわたり28回開催されてきた総勢80名による名古屋江古田会が、この度本部の力をお借りして、平成28年度より「愛知江古田会」として、正式に発足する運びとなりました。

愛知県出身もしくは在住の新卒者

から諸先輩の皆様方まで、培われた日芸魂を一同に集め、更なる親睦や交流を深めることで、この「愛知江古田会」を盛り上げて行きたいと考えております。皆様のご参加をお待ちしております。

お問い合わせは事務局まで。

〒452-0962

愛知県清須市春日新田88番地

(株)リサイクル美緑センター 内

藤田 勝

TEL 090-1783-5103

E-mail: katsynkyslove@yahoo.co.jp

学科ニュース

写真ブロック



- 今年度から「写真作家作品研究Ⅲ」を開講しました。
- 5月11日に江古田校舎で、平成5年度卒業の原田雅章氏による「水中写真の愉しみ」と題する特別講座が行われました。実際に撮影に使用する機材を見せていただきながら、水中写真家の仕事や作品についてお話し頂きました。
- 東京都赤十字血液センターからの依頼により、新宿東口駅前献血ルームで平成26年度卒業制作から2作品を選出し、写真展を開催しました。須崎将佳「山田線―汽車のない日々―」(6月1日～8月31日)、渡邊裕貴「Jamais vu いつも見ている花の、見たことのない姿。」(9月1日～11月30日)です。
- 6月19日に江古田校舎で、浅田政志氏により「浅田家」等の写真集の編集作業や、東日本大震災写真洗浄

プロジェクトの取材を通して感じた「写真のもつ力」についてお話し頂きました。

●6月23日、所沢校舎で、フォトジャーナリストの安田葉津紀氏により、カンボジア、陸前高田、シリア、ヨルダンなどの取材を通じて氏が感じた写真に携わる者にとって大事なこと、写真で私達ができることなどをお話し頂きました。

●「出て来い新人4―日本大学芸術学部写真学科気鋭学生写真展」をニコンサロンbis新宿で6月30日から7月6日に開催しました。出品者は4年次生の猪原樹、大石健登、岡島大樹、小野瑞希、川村将貴、小堀弘、小松拓也、手塚菜摘、長谷川悠人、長谷部雄一、毛利修一郎、八木元春(五十音順)です。

●「写真機材展」を復活させてから今年度は3回目となりました。メーカー15社の参加により、江古田校舎東棟2階の学生ホールで7月22日、23日に開催しました。恒例の掘り出し市に加え、写真集のバーゲンセールもありました。さらに、籤による写真関係のグッズが当たる企画も催され、多くの学生で賑わいました。

●高校生のためのワークショップを7月25日、26日に開催しました。銀塩コースとデジタルコースに分かれて、それぞれの作品をプリントしました。

●写真甲子園および2015年東川町国際写真フェスティバル(8月4日～9日)をバックアップしました。

●8月8日から8月31日、北海道上川郡東川町のキトウシ森林公園ギャラリーで、東京工芸大学芸術学部写真学科との合同企画で写真展「暁」を開催しました。出品者は、1年生の山田凌、2年生の安藤すみれ、迫恭平、3年生の和泉澤まどか、4年生の手塚菜摘、毛利修一郎、八木元春です。

●「THE ADVERTISING 時代のポスター 写真学科卒業生による広告表現」として、広告の世界で活躍された卒業生が撮影したポスターによる展覧会を芸術資料館で10月27日から12月4日に開催します。詳細は芸術学部ホームページをご覧ください。ご来校をお待ちしております。

映画ブロック



- 平成27年度オープンキャンパス
今年度のオープンキャンパスは平成27年6月28日(日)に江古田校舎で行なわれました。映画学科では、学科説明、映画学科施設見学ツアー、映像

表現・理論コースの説明会、卒業制作や映画演出Ⅲ／技術Ⅲの実習作品上映会、進学相談が行われ、多くの受験生が来場しました。



●「フォーカスイン '2015」

平成26年度卒業制作、映画演出Ⅲ／映画技術Ⅲによる作品上映会「フォーカスイン '2015」が、平成27年6月16日(火)～6月17日(水)、6月19日(金)～21日(日)までの5日間、江古田校舎東棟EB-2教室で行なわれました。60作品が上映され、600名余りが来場し盛況のうちに幕を閉じました。

美術ブロック



■大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2015

会期:7月26日～9月13日 50日間

会場:越後妻有地域

(新潟県十日町市、津南町)

「大地のおくりもの」

鞍掛純一+日本大学芸術学部彫刻コース有志が参加されました。

■星と森の詩美術館と日本大学芸術学部共同企画において「小さな星を探して」が開催されました。

会期:8月7日～9月27日

会場:星と森の詩美術館

期間中9月26日には、ワークショップ、ギャラリートークが開催されました。

鞍掛純一教授、飯田竜太専任講師、内山翔二郎助手、平林洋講師、長谷川佐知子講師、松本隆講師が出品



■Artist Today

会期:9月25日～10月12日

会場:日動画廊

福島唯史教授、設楽俊助手が出品

■雨引の里と彫刻2015

会期:10月10日～12月20日

会場:茨城県桜川市

大槻孝之教授、海崎三郎講師、和田政幸講師、佐藤晃(S62卒)が出品

■第83回版画協会展 版画展

会期:10月6日～18日

会場:東京都美術館

有地好登教授、松下サトル講師、濱田富貴講師、元田久治講師、卒業生が出品

■打林俊 設楽俊 二人展

会期:10月7日～12日

会場:ギャラリー同潤会

■公益財団法人北野生涯教育振興会彫刻奨学生作品展において、奨学生彫刻作品を展示

会期:12月8日～19日

会場:江古田校舎 芸術資料館・A&Dギャラリー

■第68回立軌展

会期:10月13日～28日

会場:東京都美術館

大庭英治教授、福島唯史教授、太田冬美講師が出品

■笹井祐子個展

会期:10月15日～24日

会場:Gallery ARK

■渡辺有葉個展

会期:10月19日～24日

会場:ニッチギャラリー

■構成と色彩展

会期:11月8日～15日

会場:埼玉画廊

福島唯史教授、寺久保文講師、設楽俊助手、大山智子(H22修了)が出品

■2015 International Women's Contemporary Art Forum「アートの断面—A Cross of Art」

会期:11月14日～25日

会場:BankART1929

笹井祐子教授が出品

■鞍掛純一個展

会期:12月4日～13日

会場:Gallery to plus

■全国大学版画展

会期:12月5日～20日

会場:町田市立国際版画美術館

絵画コース版画専攻及び造形芸術専攻の版画作品を出品

■第40回土日会展

会期:12月9日～21日

会場:国立新美術館

1976年に友情と情熱を基盤として絵画を中心に自由快活な研究団体として誕生しました。

美術学科卒業生が多数出品

■内山翔二郎 個展

会期:2016年1月21～31日

会場:ギャラリー KINGYO

■日芸版画修了卒業制作展

会期:2016年2月1日～6日

会場:ギャラリー川船

絵画コース版画専攻及び造形芸術専攻の修了卒業制作を出品

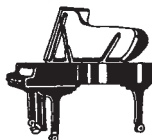
■平成27年度東京五美術大学連合卒業・修了制作展

会期:2016年2月18日～28日

会場:国立新美術館

平成27年度美術学科卒業・修了制作を出品

音楽ブロック



平成27年度音楽学科主催演奏会は、次の通りです。いずれも入場無料ですので、お気軽にご来場ください。

●第116回定期演奏会

於:練馬文化センター小ホール

10月7日(水)

17時30分開場／18時開演

<出演者>

ピアノ独奏:奥山千夏

ピアノ独奏:松島聖響

ピアノ独奏:小早川美波

ソプラノ独唱:野口まゆ

ソプラノ独唱:千田美佳
 ソプラノ独唱:木村弥素子
 トロンボーン独奏:高橋茉佑
 フルート独奏:高橋柚莉香
 クラリネット独奏:中村恵菜
 ソプラノ独唱:福島みなみ
 ソプラノ独唱:砂田茅佐
 サクソフォーン独奏:塚平満美子
 打楽器独奏:浜谷安里
 作品発表:松本真結子
 ピアノ独奏:阿左美まい
 ピアノ独奏:小針侑也

●第117回定期演奏会
 於:北とびあ さくらホール
 10月19日(月)
 17時30分開場/18時開演
 <演奏曲目>
 チャイコフスキー/ピアノ協奏曲第1番(ピアノ独奏:柴田崇考)
 ドビュッシー/クラリネットのための第一狂詩曲(クラリネット独奏:岩澤葵)
 ヴォーン・ウィリアムズ/チューバ協奏曲(チューバ独奏:村野詩穂)
 ヴェルディ/歌劇「エルナーニ」より第一幕夜になったわ…エルナーニよ、いっしょに逃げて(ソプラノ独唱:莉込紗樹)
 セジオルネ/マリンバ協奏曲(マリンバ独奏:牧野昌平)
 ウェーバー/ファゴット協奏曲(ファゴット独奏:井田千晶)
 ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第3

番(ピアノ独奏:岩佐椋太)
 ○指揮 今泉久
 ○管弦楽 日本大学芸術学部管弦楽団

●第43回ファカルティコンサート
 於:芸術学部音楽小ホール
 11月7日(土)
 17時30分開場/18時開演
 音楽学科の教員による演奏会です。

●第46回オペラ公演
 於:所沢市民文化センター ミューズ マーキーホール
 11月12日(木)
 18時開場/18時30分開演
 <演奏曲目>
 オペレッタ「メリー・ウィドウ」(ハイライト)
 ○指揮 江上孝則
 ○演出 岩田達宗

●第44回ピアノコンサート
 於:練馬文化センター小ホール
 11月13日(金)
 15時00分開場/15時30分開演
 本学ピアノコースの学生による選抜演奏会です。

●第51回室内楽の夕べ
 於:練馬文化センター・小ホール
 11月18日(水)
 17時30分開場/18時開演
 9月末に行われる室内楽学内演奏会において、選択された団体による演奏会です。

●第27回ウインドオーケストラ定期演奏会
 於:練馬文化センター大ホール
 11月24日(火)
 18時開場/18時30分開演
 <演奏曲目>
 ネリベル:交響的断章
 プッチーニ:歌劇「トゥーランドット」(稲川榮一編) 他
 ○指揮 稲川榮一
 ○演奏 日本大学芸術学部ウインドオーケストラ

●第118回定期演奏会
 於:練馬文化センター大ホール
 12月9日(水)
 18時開場/18時30分開演
 <演奏曲目>
 デュカ:魔法使いの弟子
 シベリウス:交響曲第5番
 フォーレ:パヴァーヌ・ラシーヌ讃歌
 ガーシュウィン:パリのアメリカ人
 ○指揮 矢崎彦太郎
 ○管弦楽 日本大学芸術学部管弦楽団
 ○合唱 日本大学芸術学部音楽学科合唱団

●第36回新作室内楽の会
 於:芸術学部音楽小ホール
 12月18日(金)
 18時開演予定
 提出作品より選抜された演奏会です。

文芸ブロック



■文芸学科卒業生の額賀滯さん、第16回小学館文庫小説賞と第22回松本清張賞をダブル受賞！

文芸学科平成24年度卒業の額賀滯さんの小説「ヒトリコ」が、第16回小学館文庫小説賞受賞作に選ばれました！498篇の応募作の中からの受賞となります。この受賞に続き、額賀さんの小説「ウインドノーツ」が第22回松本清張賞に選ばれ、オール讀物平成27年6月号に掲載されました。

このように、2015年4月、第16回小学館文庫小説賞受賞決定の直後に、

第22回松本清張賞も受賞という運びとなり、ふたつの出版社がその壁を破って、受賞作を額賀さんのダブルデビュー作として6月24日に同時刊行することになりました。

小学館文庫小説賞受賞作「ヒトリコ」は小学館より、松本清張賞受賞作はタイトルを「屋上のウインドノーツ」として、文藝春秋社より発売中です。ぜひご一読下さい。

演劇ブロック



定期刊行物のご案内

演劇学科では下記の刊行物を年1回、毎年3月に発行しております。いずれも非売品ですが、入手またはバックナンバー閲覧ご希望の方は、演劇学科宛ご連絡下さい。

- ・演劇学科機関誌「演劇創造」
 - ・劇作コース戯曲集「DRAMA21」
 - ・大学院舞台芸術専攻論文集「舞台芸術研究 Performing Arts Studies」
- ### 第42回演劇資料展

演劇学科では毎年秋、芸術資料館と共催で舞台芸術に関する資料展を開催しております。本年は下記の通り実施致します。是非ご来館下さい。「舞台美術家・古川雅之展～秀逸なる劇空間の創造～」

会期：9月25日～10月23日(9:30～16:30、土曜は正午まで、日曜祭日及

び10月3日は休館)
会場：芸術学部芸術資料館(江古田校舎・西棟3階)
その他：入場無料。車でのご来場はご遠慮下さい。

公演のご案内

演劇学科では後期実習発表を下記の日程で行います。いずれも入場無料ですが、ご観劇には事前予約が必要です。学科ホームページ <http://www.theatre.art.nihon-u.ac.jp/> の予約フォームからお申込下さい。会場は☆が所沢校舎アートセンター内ブラックボックス、★が江古田校舎北棟・中ホールです。

☆総合実習ⅠA(演劇)

演出：中野成樹

「くりかえされる」10月15～17日

「悲しめなはなし」10月22～24日

★総合実習ⅢB(洋舞)

「Dance Performance～ロンド・カノン形式による創作～」

創舞指導：松永雅彦 10月23・24日

★総合実習ⅢA(演劇)

「二つのイヤギ(物語)」(仮)

演出：和田喜夫 11月12～14日

☆総合実習ⅠB(洋舞)

「Dance Performance～シンメトリ形式による創作～」

創舞指導：加藤みや子 松永雅彦
11月20・21日

★総合実習ⅡC(日舞)

作品未定

創舞指導：花柳せいら 11月21日

★卒業制作(日舞)

「五彩—Gosai—」(仮)

創舞指導：花柳基 11月27・28日

★卒業制作(演劇)

「ザ・キャラクター」

演出指導：神永光規 山田和也
12月10～12日

☆総合実習ⅠC(日舞)

作品未定

創舞指導：藤間恵都子 12月12日

★卒業制作(洋舞)

「Dance Performance～自由形式による創作～」

創舞指導：加藤みや子 12月18・19日

放送ブロック



■中学生のための「情報番組制作ワークショップ」

練馬区と放送学科が共同で実施している情報教育推進事業「中学生のための「情報番組制作ワークショップ」」が今年も開催されました。

第6回目の今回は、練馬区在住の中学生21名が集まり、鈴木康弘教授の指導のもと6月27日から8月4日に渡って行われました。

このワークショップは、企画立案

から番組完成まで中学生が実践的に取り組むことで、メディア・リテラシーを学ぶことを目的としています。

最終日にはまとめとして、制作した番組の上映と鈴木教授の講演「テレビメディアについて考える～テレビが伝えていることってホント？」が行われ、参加した中学生だけではなく、多くの一般の方々も聴講されました。

■朗読ゼミの学生が「まちの保育園」で絵本の読み聞かせ

朗読ゼミ(近藤サト特任教授)の3年生が6月18日に朗読実習の授業の一環として、練馬区小竹町の「まちの保育園」で絵本の読み聞かせを行い

ました。

1歳児～5歳児まで年齢別に行なった読み聞かせは昨年に引き続き今回が2回目になります。大人相手の朗読とは違った子どもへの読み聞かせは、学生にとって良い経験となりました。

■乱丸(上下巻)上梓

時代小説・SF作家の宮本昌孝さん(昭和54年度卒)が単行本「乱丸(上下巻)」を上梓されました。徳間書店から出版されました「乱丸」は、織田信長に使えた乱丸の運命と生涯を描いた作品で、日本経済新聞の書評欄に取り上げられるなど話題の作品です。

デザインブロック



ACジャパンCM学生賞にて学生グループが優秀賞と奨励賞を受賞

公益社団法人ACジャパンが主催する第11回CM学生賞の参加校は26校で156作品が集まり、その中から、一次選考、二次選考を経て、ファイナリスト54作品が選出されました。最終選考会において、グランプリ1作品、準グランプリBS民放賞1作品、部門賞5作品、優秀賞18作品、奨励賞21作品を決定し、本学は優秀賞と奨励賞を獲得しました。受賞者は次のとおりです

●優秀賞「約束」永島千寿流、坂本舞由(デザイン学科)、戸村華恵、成島克俊(放送学科)、大内蔵夏帆、三戸茜(文芸学科)、杉山陽介(音楽学科)、三井安奈(演劇学科)

●奨励賞「dust burn」新宮千秋、下間碧、保田大輝(デザイン学科)、佐野大(映画学科)、星野智洋(写真学科)、飯島早織、相佐一輝(文芸学科)、金田哲利、荒谷雄一郎(放送学科)、加藤穂乃伽(演劇学科)

銀座ウィンドウディスプレイの制作に学生がデザイナーとして参加

銀座和光(東京都中央区銀座)1階のショーウィンドウにデザイン学科の服部瑞季、境野淑、大倉彩咲、永島千寿流の4名がデザインしたディスプレイ「Story of you」が5月21日から6月10日まで展示されました。毎年恒例となっているこのディスプレイデザインの取り組みですが、今年もとても講評でした。

クラブ・オブ・ノーツ国際コンペティションで山之内舞さんが銅賞を受賞

世界トップクラスの付箋紙メーカーAMC社(ドイツ)の日本法人会社、プリントインフォームジャパンのご協力により、AMC社が主催するクラブ・オブ・ノーツ国際コンペティションに参加しました。このコンペは新しい付箋紙の使い方をマーケティングの視点から提案するというものです。

日本からこのコンペには初参加でしたが、山之内舞さん(デザイン学科3年)が「Easy and Eco Packaging Sticky」を提案し、見事銅賞を受賞しました。1位、2位はフランスのESCE校で、クロアチアで授賞式とプレゼンテーションが行われました。

戦後日本の名作グラフィックポスター展を開催

本学江古田校舎A&Dギャラリーと芸術資料館で「戦後日本の名作グラフィックポスター展」を6月9日(火)～7月3日(金)まで開催しました。亀倉雄策デザインの東京オリンピックのポスター、中村誠、石岡瑛子デザインの資生堂のポスターなど90点を展示。これは凸版印刷がリプリントしたのですが、これらの日本の代表的なポスターが一同に見られる展示はなかなかなく、大変珍しい展示となりました。

ドイツのKISD(ケルン・インターナショナル・スクール・オブ・デザイン)で笠井則幸准教授が講義

笠井准教授(グラフィックデザイン)がドイツのKISDで、4月30日から5月7日まで、講義とワークショップをおこないました。講義は「本学のグラフィックデザイン教育」、ワークショップは「タイポグラフィの解体と再構築」をテーマにおこないました。ワークショップでは、欧米圏内と日本・アジア圏内でのタイポグラフィの考え方やバックボーンの違いが各学生の作品に明確に表れ、文化とデザインの結びつきを改めて認識でき有意義な授業となりました。

あなたの作品おまちします！

第40回土日会展：絵画作品を公募しています

会 期 2015(H27)年12月9日(水)～12月21日(月)

会 場 国立新美術館1階展示室1A室

搬 入 11月24日(火) 10:00～

問合せ 土日会事務局 0422-48-1007(T&F)

遠慮なくお問合せください 事務局 三浦裕之

※日芸芸術学部美術学科卒業生
が多数出品しています

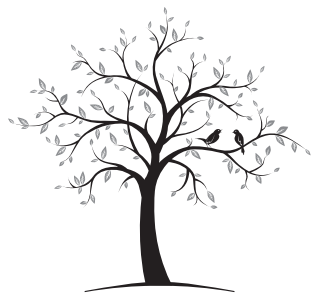
江古田会各支部連絡表

各江古田支部に
ご在住の校友の皆さん

今回から休会していました鹿児島江古田会が再開することとなりました。各支部では参加者を募っておりますので是非皆様のご連絡をお待ちしております。

支部名	名 前	卒業学科年度	連絡先
北海道江古田会	氏家 曹一	放送 52 年度卒	090-3468-6657
青森江古田会	高木 保	演劇 32 年度卒	0177-77-7708
秋田江古田会	仙北屋 昭弘	音楽 54 年度卒	090-2954-2283
岩手江古田会	鈴木 玲子	演劇 42 年度卒	019-646-6745
宮城江古田会	桑折 洋一	放送 55 年度卒	090-3752-8833
山形江古田会	横倉 晋也	美術 52 年度卒	023-631-8040
新潟江古田会	増井 伸一	写真 48 年度卒	025-233-3910
福島江古田会	島崎 恒夫	映画 31 年度卒	024-935-5410
長野江古田会	宇田川 信行	映画 38 年度卒	026-251-8144
石川江古田会	干場 文夫	音楽 50 年度卒	090-6273-4982
岡山江古田会	藤井 一也	文芸 53 年度卒	090-3177-0334
福岡江古田会	飛嶋 慶一	写真 44 年度卒	090-6953-5543
佐賀江古田会	音成 日佐男	放送 45 年度卒	0952-29-3398
熊本江古田会	奥村 隆志	写真 43 年度卒	090-7169-2909
宮崎江古田会	米倉 史朗	写真 52 年度卒	090-1080-8082
鹿児島江古田会	堀之内 隆	放送 49 年度卒	090-3739-7374

海外江古田会として台湾江古田会、韓国江古田会、中国江古田会があります。



総会のご案内

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。ビジュアルから立体に至る、デザイン全般を受け持つ。

☎03-5999-8611

(株)スピーチ・バルーン▶1985年発足。絵本、コミック、アニメほか、企画本の出版プロデュース、また、各種イベントの企画・構成・プロデュースなども行っている。

☎03-5999-6911

design:スタジオ・マイ

編

集

後

記

この夏は2020東京オリンピック公式エンブレムのデザインが剽窃ではないかという話題が世間を騒がせました。元ネタがネットに落ちているものなら、誰もがまたバクリ元に到達できるという時代に、独創とは何かを考えさせられます。

(青木)

8つのアート1つのハート



日本大学芸術学部校友会報・第95号

2015年秋季号●平成27年10月発行●

●編集人 会報編集委員会

●発行人 綾部東洋子

●広報担当 西垣仁美 鳥山正晴 笹井祐子
川上 央 青木敬士 原 一平
安部 裕 長瀬浩明

●発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学内
電話 (03) 3554-5363
事務担当 北嶋 留美子

●印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-43-16
成田ビル
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

●表紙
平成22年度造形芸術専攻修了
日比野 絵美
『ミヤコフスレ2』

2016年度一般入学試験〈第1期〉・〈第2期〉日程

I 一般入学試験諸日程〈第1期〉(募集人員376名)

学科及び募集人員	出願受付締切期日		試験期日	試験場	合格発表日時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真 (43) 美術(2月2日試験) (15)	1月26日(火)	1月26日・27日 (火・水)のみ 窓口受付	2月2・3日(火・水)	芸術学部 江古田校舎	2月12日(金) 13:00	2月26日(金)
音楽 (43) 放送 (56) デザイン (40)			2月2・3・4日(火・水・木) 一次 2月2日(火) 二次 2月5日(金)		一次 2月4日(木) 14:00 二次 2月12日(金) 13:00	
映画 (64) 美術(2月9日試験) (15)			2月2・3日(火・水)		2月12日(金) 13:00	
文芸 (60) 演劇 (40)			2月9・10日(火・水) 2月9日(火) 2月9・10日(火・水)		2月18日(木) 13:00	

- ※ 一般入学試験に関する〈第1期〉各期日はすべて2016年のものとします。
- ※ 出願受付開始期日は2016年1月8日(金)、一般入学試験〈第1期〉の入学手続きは二段階手続方式が可能。
二段階方式の最終入学手続期限は2016年3月25日(金)とします。
- ※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。
- ※ 1月25・26日、2月1・2日(いずれも月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00~16:00)
- ※ 1月26・27日、2月2・3日(いずれも火・水)のみ、日本大学芸術学部江古田校舎にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00~16:00)

II 一般入学試験諸日程〈第2期〉(募集人員60名)

学科及び募集人員	出願受付締切期日		試験期日	試験場	合格発表日時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真 (5) 映画 (10) 美術 (5) 音楽 (5) 文芸 (10) 演劇 (7) 放送 (15) デザイン (3)	全学科 2月23日(火)	2月23・24日 (火・水)のみ 窓口受付	3月1日(火)	芸術学部 江古田校舎	3月10日(木) 13:00	3月25日(金)
			3月1・2日(火・水) 一次 3月1日(火) 二次 3月4日(金)		一次 3月3日(木) 14:00 二次 3月10日(木) 13:00	
			3月1・2日(火・水)		3月10日(木) 13:00	

- ※ 一般入学試験に関する〈第2期〉各期日はすべて2016年のものとします。
- ※ 出願受付開始期日は2016年1月8日(金)、入学手続期限は2016年3月25日(金)とします。
一般入学試験〈第2期〉に関しては一括での手続きとします。
- ※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。
- ※ 2月22・23日(月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00~16:00)
- ※ 2月23・24日(火・水)のみ、日本大学芸術学部江古田校舎にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00~16:00)